



現代中国学術選

故宮營造六百年

発売 2026 年
11 月 6 日!

定価 6800 円 + 税

370 頁 A5 上製 四色印刷

ISBN978-4-910326-26-9 C1022

対象年齢 一般

➤ 故宮六百年——中国文明の継承と輝きを見つめる一冊。

◇ 本書は、明の永楽 4 年(1406 年)に着工し、1420 年にほぼ完成した故宮が、600 年以上にわたり中国文明の中心として果たしてきた歴史的・文化的役割を、建築史・技術史・文化史の観点から総合的に考察するものである。

◇ 中軸線を基調とした左右対称の空間構成、精巧な木造架構、瑠璃瓦や彩色による装飾体系、石彫技術、さらには高度に計画された排水システムなど、故宮の建築群には中国古代建築技術の粋が集約されている。本書は、これらの構造的特徴と技術的背景を詳細に検討し、古代職人の知的体系と技術継承の実態を明らかにする。

◇ また、1925 年の故宮博物院設立以降、紫禁城が皇室空間から公共文化施設へと転換した過程にも注目し、保存・修復の科学的手法、文化財管理の制度化、そして現代における歴史的建築群の再解釈について論じる。故宮が蓄積してきた歴史記憶と伝統文化が、いかに現代社会において再構築され、文化遺産として新たな意味を獲得しているのかを探る一冊である。

【著者略歴】晋宏達

1982 年 2 月に北京大学歴史学部考古学専攻卒業後、北京市文物保護・考古発掘の調査研究チームに配属され、地上文化財の保護業務に従事。1992 年、世界文化遺産や文化財建築の保護管理業務に従事。2002 年、故宮の総合的な保護・修繕管理業務に携わり、現在、故宮博物院の研究員および學術委員会委員を務めている。主な編集作品には、『司馬台長城』、『清乾隆内府繪制京城全図』、『武英殿—故宮古建築保護工程実録』、『明代宮廷建築大事史料長編』がある。共同作成・編集著書には、『中国文物古跡保護準則』、『故宮保護総体計画大綱(2003-2020)』、『北京城中軸線古建築実測図集』と『御苑賞石』などがある。

【訳者略歴】倉持 リツコ(李璋)

(公財)文化・国際交流財団職員、司法通訳人、大学講師。日本当代中国文学研究会会員。主な翻訳作品には、『明君か？梟雄か？—『三国志演義』の劉備像』、『生・一枚の紙切れ』、『翻訳集—中国が描く日本の戦争』、『痛むだろう、指が』、『ヤー・ジュンと犬の物語』共訳、『法治に向けて』などがある。

【監訳者略歴】徳間佳信

現代中国文学研究者、翻訳家。日本中国当代文学研究会会員。日本文学研究者。中国人民警官大学日語専攻、駒澤大学、和光大学講師。訳書に『西海固の人々』、『シリーズ現代中国文学 時間の入り口』、『チョモンマのトゥンカル』がある。共訳書に『同時代の中国文学 ミステリーインチャイナ』、『黒い雪玉 日本との戦争を描く中国語圏作品集』がある。著書に『評伝 銀のつえ 米山 検校を探して』がある。

目次

第一章 元代大都城の設計構造および特徴

- 一、元代大都城の建設に関する略史
- 二、大都の町
- 三、大都の宮殿と御苑
- 四、大都の町、寺社、官庁と水路体系

第二章 明代の都城建設

- 一、洪武時期に南京を首都とする
- 二、成功した旧城の改造
- 三、嘉靖時期における北京外城の増築
- 四、北京建設の功臣たち

第三章 故宮建築物の布置

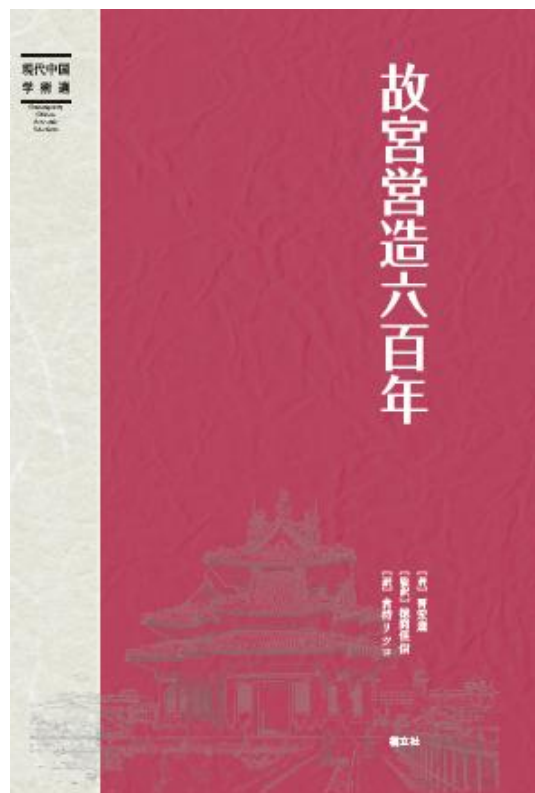
- 一、明、清時代の北京城の布置
- 二、草創期の北京宮城の布置
- 三、明代中後期および清代中期の改造

第四章 故宮の建築芸術

- 一、故宮の古建築に関する一般常識
- 二、故宮建築の装飾芸術
- 三、故宮建築の空間芸術

第五章 故宮建築物の保存と維持

- 一、紫禁城建築物のメンテナンスを振り返る
- 二、故宮の全面的な保全へ
- 三、故宮の全体保全工事の実例
- 四、北京会議と北京ファイル



注文書



樹立社

FAX: 03-6261-7897

【新刊委託】

部

現代中国学術選

『故宮營造六百年』

ISBN978-4-910326-26-9 C1022

著/晋宏達

監訳/徳間佳信

訳/倉持 リツコ

定価: 6800 円 + 税

370 頁 A5 148×210 上製